

## 上越市 下割遺跡(Ⅹ) 現地説明会資料

令和3年9月4日(土)

国土交通省高田河川国道事務所  
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 1 下割遺跡の概要

下割遺跡は高田平野のほぼ中央、飯田川<sup>いいたがわ</sup>左岸に立地しています。現地表面の標高は14.0m前後です。東西950m、南北750mにわたる広大な遺跡です。時代も縄文時代～古墳時代～奈良・平安時代～中近世までと多様です。

## 2 2021(令和3年)度の調査成果

2021年度は、橋脚部分(P1～P6・A1と呼称)と、将来市道(市道と呼称)になる範囲の一部の調査を行っています。時代別・地区別に調査成果を説明します。

## ① 縄文時代

縄文時代後期前葉<sup>じょうもんじだいかうきぜんよう</sup>(約4,500年前)の集落を良好な状態で検出しました。遺構<sup>いこう</sup>はP6で土坑<sup>どこう</sup>を8基検出し、縄文土器のほかアスファルトが出土しています。P5では大量の縄文土器と大小の磨製石斧<sup>ませいせきぶ</sup>、石棒<sup>せきぼう</sup>、ヒスイ未製品<sup>みせいひん</sup>・原石<sup>どくわ</sup>、土偶<sup>こくわう</sup>、黒曜石剥片<sup>こくわうせきはくへん</sup>などが出土し、縄文時代の集落の中心部分と考えられます。P4で立石<sup>りつせき</sup>が1点、石棒1点と小型の土偶が出土しています。本格的な調査はこれからです。P3では、厚い洪水の砂で覆われた集落の一部を検出しました。遺物包含層は洪水で削られ、調査区のほとんどは強い水流で削平されていました。

## ② 古墳時代 ※飛鳥時代も含む

A1で飛鳥時代<sup>あすか</sup>(約1,400年前)の焼土<sup>しょうど</sup>を複数検出し、土師器<sup>はじき</sup>もまとまって出土しています。須恵器短頸壺<sup>すえきたんけいこ</sup>が完全な形で1点出土し、カマドの支脚<sup>しきゃく</sup>等も出土しています。古墳時代中期から前期の調査はこれからです。P1で古墳時代中期の土器が散発的に出土しています。最下層の現地表面から約4m下で、古墳時代前期の可能性が高い掘立柱建物<sup>ほったてばしらたてもの</sup>を1棟検出しました。4本(内、試掘で1本出土)の柱根<sup>ちゅうこん</sup>が良好に残っていました。

## ③ 奈良時代～平安時代

A1で平安時代を中心とする幅約10m<sup>しぜんりゅうろ</sup>の自然流路を検出しています。2020年にP1で検出した自然流路の下流の可能性もあります。水辺<sup>みずべ</sup>での祭祀<sup>まつり</sup>を行っていたようで、祭祀遺物が多く出土しています。9世紀代の土師器無台椀<sup>むたいわん</sup>(「千」「成人」墨書土器あり)と小甕<sup>こがめ</sup>、須恵器有台杯<sup>ゆうたいはい</sup>(「人」墨書土器あり)、木製弓<sup>もくせいゆみ</sup>、木製皿<sup>もくせいさら</sup>、斎串<sup>いぐし</sup>、木簡<sup>もつかん</sup>が2点出土しました。第1号木簡は「若湯坐<sup>わかゆま</sup>」の文字が書いてありました(釈文は後述)。第2号木簡は封緘木簡<sup>ふうせんもくかん</sup>の下部です。上部は出土しませんでした。封緘木簡は県内では長岡市八幡林遺跡(国史跡)で7点、同市下ノ西遺跡<sup>しもにし</sup>で未製品、胎内市船戸川崎遺跡<sup>ふなとかわさき</sup>、新発田市野中土手付遺跡<sup>のなかどてつき</sup>など官衙(役所)関連遺跡で出土することが多く、極めて貴重なものです。これまで下割遺跡で検出した古代の建物では、これに相当する規模の建物が検出できていません。未調査範囲に役所<sup>やくしょ</sup>に関連する施設がある可能性があります。

## ④ 中世～近世

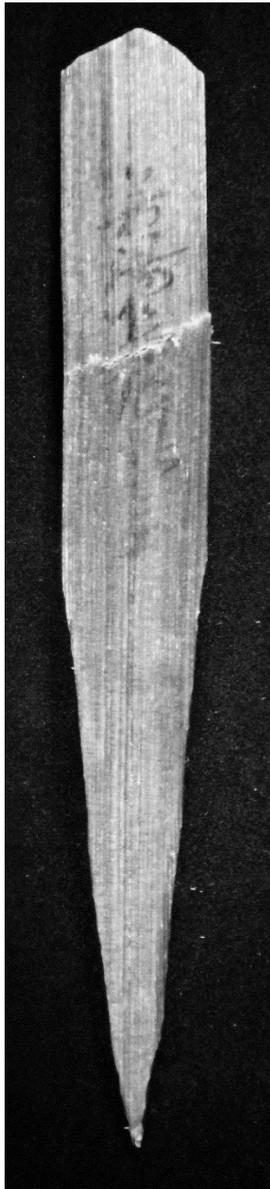
市道で西側に畠<sup>はたけ</sup>とみられる畝状小溝<sup>うねじょうこみぞ</sup>を複数検出しています。中央に大規模な溝1本と細い溝2本を検出しており、そこから東側が水田域と考えています。中世～近世<sup>すいでんこうさくど</sup>の水田耕作土の中から、下層の古代の土師器・須恵器が大量に出土しています。耕作によって攪拌<sup>かくはん</sup>され、下層の古代の遺物が巻き上げられたものと考えられます。古代面の遺構調査はこれからです。

### 3 まとめ

昨年から期待されていた縄文時代後期前葉の集落の様子が徐々に明らかになっています。部分的な調査のため、集落の規模、遺構配置等の把握はむずかしいところですが、これまで点々と縄文時代の遺物が出土していた高田平野の縄文遺跡が、初めて面的に調査できました。県内の他の平野部と同様に縄文時代の集落が高田平野に進出していたことの証明となります。地表下4mの縄文時代の遺跡の存在は、上越市の歴史を変える調査となりました。

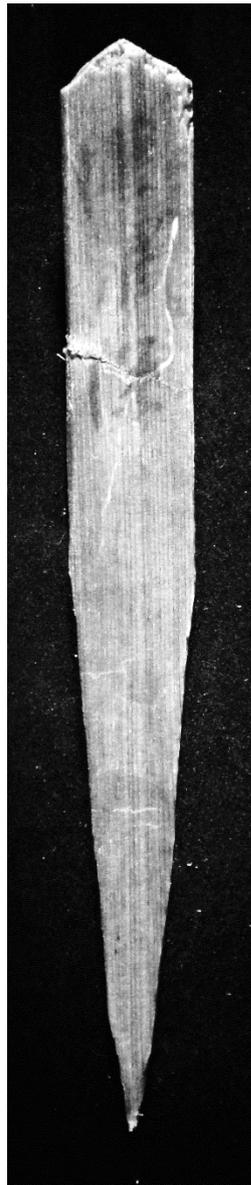
A1 自然流路出土第1号木簡赤外線写真及び積文

第2号封緘木簡下部



「若湯坐  
わ か ゆ ゑ  
□ □ □  
(事力)  
」

表



「  
□  
□  
□  
」

裏



表

裏

赤外線写真撮影及び積文作成  
新潟県立歴史博物館 浅井勝利氏

若湯坐は「氏」です。下の2文字は名のようなようですが、不明です。氏と名の境に切込みを入れているようです。裏面も3文字あり、左は「さんずい」のようにも見えますが不明です。若湯坐は律令制以前に貴人の産児に湯を使わせる役の女性を由来とする「氏」のようです。平城京出土木簡に「若湯坐」の氏名が記されたものが複数あります。越後では初見です。先端が尖っているので付け札の可能性ががあります。

# 下割遺跡区 遺構平面図 (S=1/300) ・ 出土遺物 (縮尺不同)



木製皿 墨書土器「人」「千」



石棒(長 40 cm) 立石 長 55 cm



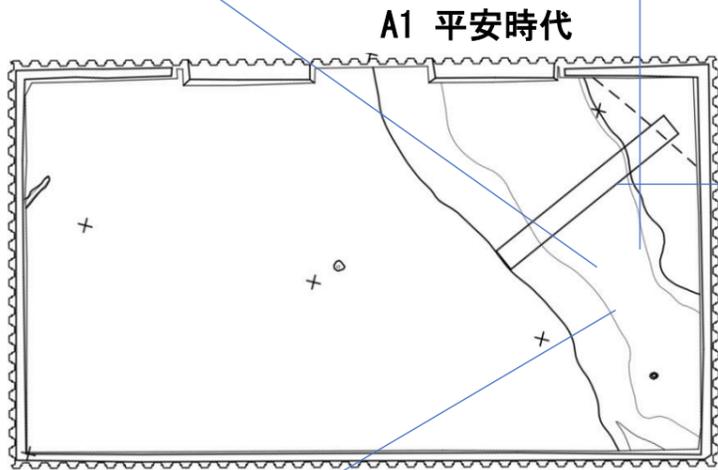
土偶顔



土偶体部



アスファルト

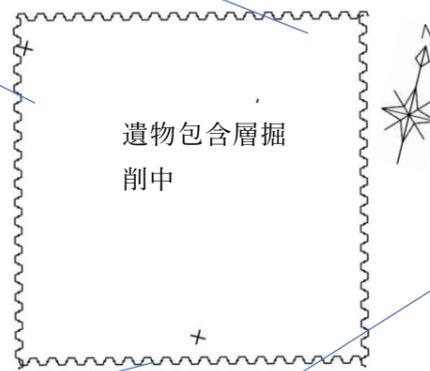


木筒

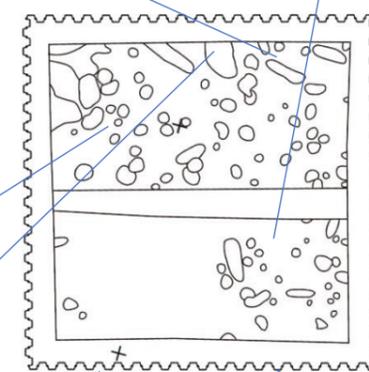
P3 縄文時代後期前葉



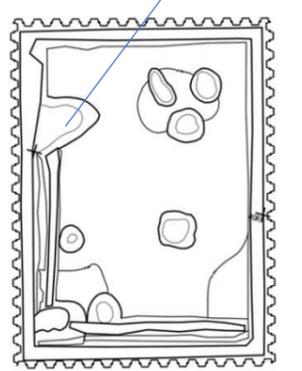
P4 縄文時代後期前葉



P5 縄文時代後期前葉



P6 縄文時代後期前葉



斎串



小型土偶体部



注口土器



石棒



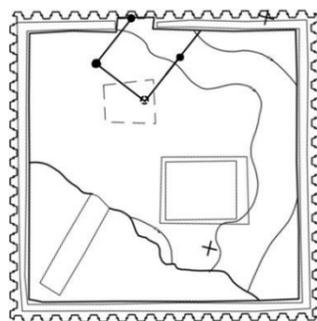
磨製石斧



ヒスイ未製品・原石

P1 古墳時代前期

掘立柱建物



市道 中世～近世

畠・水路・水田

